

# 2020年・東京は、もう、始まっている。

山田拓朗（NTTドコモ）

リオ2016パラリンピック 競泳男子50m自由形（S9）銅メダル



意したのは、高校2年生の北京パラリンピック後だそうです。「納得のいく結果が出なかった。もっとしっかり取り組んで、悔いのない競技生活を送りたい、という思いが生まれました」。

大学卒業時、NTTドコモに入社を決めた経緯が印象的です。「新しいことがあったんです。以前からパラスポーツを支援している会社やスポーツメーカーに行くチャンスはあったと思いますが、自分の可能性を試す意味でも、また後に続く後輩のためにも、新しい道を切り開きたかった」。就活サイトにエントリーし、一般の学生と同じように「就職活動」をし、面接で企業に自分を売り込む中で出会ったのがNTTドコモだったそうです。パラスポーツに対する理解もあり、一緒に新しいことができそうだという可能性を感じ、入社を決めました。「今は会社全体で支援してくれ、練習の環境なども、自分の要望も取り入れてくれて、競技に打ち込むことができてありがたいです」と話してくれました。

「2020年が東京ではなかったら、今回のパラリンピックで辞めていたかもしれない」と山田選手。それだけ、東京パラリンピックにける思いは大きいと言います。「年齢が高くなるにつれて、心肺機能の低下はあるかもしれませんが、短距離であれば、トレーニング次第で他の部分でまだまだ勝負できる。自分はまだまだ速くなれる、と思っています」。4年後、東京の舞台で表彰台の真中に立つことをイメージして。山田選手の東京パラリンピックは、もう始まっていた。

今年（2016年）9月に開催された、リオデジャネイロパラリンピック。NTTドコモ所属の山田拓朗選手が、競泳男子50メートル自由形S9クラス（運動機能障害）で、銅メダルを獲得。26秒00という日本記録を更新してのメダル獲得は、大きな話題となりました。そこで、山田選手に話をお聞きました。

「メダルを獲得したことはよかったと思いますが、達成感というよりも、次に向けて、という思いが今は強いかもしれません」と山田選手。銅メダルを獲った50メートル自由形のタイムは26秒00だったのですが、山田選手は25秒台を目標としていました。「スタートから浮きあがりの部分にまだ、課題

があります」と、その目はすでにさらなる高みを見えています。

山田選手とパラリンピックとの関係は、13歳の時、アテネパラリンピックの初出場に始まり、その後北京、ロンドンと3大会に連続出場。4回目の出場となるこのリオデジャネイロで、初のメダルを獲得しました。そんな山田選手に水泳を始めたきっかけは、と聞くと「水嫌いだった僕を心配した親が、スイミングスクールに入れてくれたんです」と意外な答え。3歳の時に水泳を始めたということですが、その時の記憶はない、とのこと。気がつけば水の中にいるのが当たり前、という感覚だったそうです。

アスリートとしてのキャリアを踏み出そう、と本格的に決

## NTTクラリティからのご案内



## 塩山ファクトリーから心をこめてお届けします。

塩山ファクトリー製の商品をご紹介します！手漉き紙を使ったハガキやメモ帳。紙管を組み立てて作ったペーパーペン。そして、ミシンを使って製作するペンケースが加わりました。手漉き紙の製作には薬品を使用しておらず、環境に配慮しています。ノベルティ等にぜひご利用ください。

- 価格
- ①手漉きハガキ 5枚 200円
- ②クラルポ（ペーパーペン） 1本 150円
- ③ペンケース 1枚 200円 ※数量限定
- ④好き漉きメモ（メモ帳） 1冊 300円 ※表紙に手漉き紙を使用しています。

●お問い合わせ  
NTTクラリティ 営業部 営業企画担当  
TEL：0422-50-8347 MAIL：toiawase@ntt-claruty.co.jp



僕が取り戻した  
空手道の楽しさを、  
みんなにも伝えたい

## NTTクラリティ 島津和彦

一度は忘れていた空手道の楽しさ。

足に障がいを受けた後にその楽しみを取り戻した男がいる。

NTTクラリティの島津和彦さんは、不慮の事故がもとで足に障がいを受けた。

その後一念発起して再開した空手道で、輝かしい実績を残す。

さらに今では後進の指導という、新しい挑戦にも一歩を踏み出した。

写真：岸本 剛



## 電話対応のプロフェッショナル、 休日は道場で汗を流す

ある土曜日、雨の朝。11月半ばで底冷えする、板張りの道場。寒い中でじっと待っていると、道着を着た高校生3人が姿をあらわしました。3人で体をほぐしているうちに、もう一人、年上の男性が登場。4人で輪になって、お互いに一礼すると、稽古の始まる。後から道場にきた年上の男性が、NTTクラリティの島津和彦さん。ここ、神奈川県立麻溝台（あさみぞだい）高等学校の空手道部を指導するようになって、丸1年になります。

島津さんは、NTTクラリティ神奈川料金問合せセンタに「SV」（スーパーバイザー）として勤務しています。「お客様からの電話によるお問い合わせには『コミュニケーション』が対応します。そのコミュニケーションをサポートするのが、SVの役割です。視野を広く持って、対応の質全体に気を配る必要があるの、常に緊張感を持っ

て当たらなければならない仕事です」。立派な体格にスキンヘッド。ちょっと強面だけれど、仕事での気遣いは細やか。そんな島津さんの休日の顔が「空手道」です。

島津さんは、足に障がいがあります。右足を骨折した時の予後が悪く、左足の腓骨を移植しなければならなくなりました。「もう15年以上前になります。当時勤めていた会社から帰る時に、自転車置き場で、自転車に乗ろうとして転んでしまって。疲れていたんでしょね」。右足を骨折し、そのすぐ翌日から入院。「本当は、骨がつくまでは安静にしていなくていいんですが、仕事が忙しかったので、1週間位で退院しちゃったんです」。松葉杖で会社に通っていたら、足の具合が悪化してしまいました。「骨折した部分に入れていたプレートに細菌がついて化膿してしまっただけです。結局その後10か月ほど入院して、5回の手術をしたそうです。最終的には右足に、左足の腓骨を入れることになってしまいました。「右足は湾曲して、左足よりも3センチほど短くなってしまいました」。

## 再び取り組んだ空手道で、 健常者の大会でも優勝

足に障がいを受けて数年後、島津さんは、若い頃に一度は打ち込んだものの、辞めてしまっていた空手を再開しようと思いたちます。「きっかけは、リハビリのためなんです。その当時は、杖がなくては歩けなかった。杖を使っただとしても、歩くたびに足が痛んだり、大変苦労していました」。少しでもリハビリになればと再開した空手道でしたが、島津さんは、高校のときはインターハイにも出場した実力の持ち主。障がい者の大会に出るようになると、次々と実績を残すようになります。2014年に行われた「第10回全日本障害者空手道競技大会」では、形の部、組手の部両部門で優勝しただけでなく、健常者の大会である全日本空手道連盟和道会全関東大会でも優勝と、輝かしい成績をおさめます。そのことがきっかけとなり、島津さんは自分が競技に出るだけではなく、障



がいに、さらに広く一般の人たちにも、空手道の楽しさを伝えることができないかと考えるようになったのだそうです。

#### 空手道の楽しさを、高校生に伝えたい

自分が競技するだけでなく、「空手道を広める」ことに関心を持ち始めた島津さんに、高校の空手道部を指導してくれないか、という話が舞い込みます。「息子が通っている麻溝台高校で、空手道の指導者を必要としている、と聞いたんです」。麻溝台高校の空手道部の顧問の先生は、柔道の経験者ではあるものの、空手道は未経験のため、空手道部員として入部した息子さんを通じて、島津さんに白羽の矢が立った、というわけです。高校生の時以来指導から遠ざかっていた島津さん、教えることには戸惑いがあったといいます。実は、島津さんには右足の感覚がありません。本人は「竹馬に乗っているような感覚」だといいます。右足を軸足にすることはできないので、蹴り技などに制限があります。「子どもたちに、蹴り技を教えてあげられないのが、少し残念です」。しかし、生徒たちには島津さんの障がいに対する理解はもちろん、培ってきた経験と知識、なによりも空手道に対する姿勢が、しっかりと伝わっているようです。島津さんが指導に入ることで、生徒たちの技術の幅は格段に広がったといいます。「以前は、経験のある生徒が自己流で他の生徒に教えていたようなのですが、やはり自分の知っている範囲に偏ってしまうんですね。また、対外試合も積極的に行うようにしていて、翌週にも、遠征を控えていました。「いいよ、いいよ!」、「もっと踏み込んで!」。島津さんの指導は、生徒を励まし、やる気を引き出すような、優しさと刺激に溢れたものでした。「僕の若い頃は、生徒を精神的に追い詰めるような、厳しい指導が主流



でした。現在は練習を楽しみながら行う方が心身ともに効率よく鍛えられ、競技力も向上することが証明されています。稽古内容はトレーニング理論に沿った、バランスの良い内容ですが、基本練習から反復回数も多く、強度的にはかなりきつと思います。高校生の体力で行うミット打ちや組手は当たりが強いので、心身ともに万全な状態でないと大ケガにつながります。一番気を遣っているのは、生徒にケガをさせずに、無事に自宅へ帰すこと。声を掛け合い、楽しみながら、自発的に稽古に取り組むことで大きなケガを未然に防げると考えています」。

#### 夢は、教え子たちが指導者に育つこと

今の空手道部員4人のうち3人は初心者でしたが、動きを見ていると、2年足らずの経験とは思えないほど、

しっかりと動いています。この秋の昇段審査で、全員黒帯を取ることができたそうです。「彼らに卒業後も空手道を続けてもらい、最終的には指導者になってもらうのが、僕の夢です」。部員同士お互いに声をかけあい、励ましたり、アドバイスをしたりしている姿も印象的でした。部員たちに話を聞くと、口々に「空手が楽しい」といいます。主将の前田くんは「島津先生は、自然とやる気が出る言葉をかけてくれ、丁寧に指導してくれます。島津先生が来てくれてよかった」と話してくれました。

障がいを受けてから、あらためて実感した、空手道の楽しさ、奥深さ。島津さんの経験が、若い生徒たちに、しっかりと伝わっていき、彼らが指導者になることで、さらにその先へとつながっていく。島津さんの「夢のはじまり」に、立ち会うことができたのかもしません。



※スワンペーカリーは、障がいのある人がパンを製造・販売するお店です。ヤマトホールディングス（株）の特例子会社である「株式会社スワン」が、障がい者の働く場を広げる目的で全国に直営店・チェーン店を展開しています。NTTクラリティでは、神奈川県以外にも東京、北海道の事務所でスワンペーカリーのパンが販売されています。

## 「もっとたくさんの人に、うちのパンの美味しさを知ってほしい」

スワンカフェ&ベーカリー町田2号店

<http://www.swanbakery.co.jp/shop2/machida2.html>

以前、本誌「クラルテ」で、「スワンカフェ&ベーカリー町田2号店」が、NTTクラリティ神奈川料金問合せセンターでの販売をはじめたというニュースをお伝えしました。その後、その販売の輪が広がっていると聞いて、再び取材させていただこうと「スワンカフェ&ベーカリー町田2号店」の、天野広美店長にお話を聞きました。「おかげさまで、NTTソフトウェア様での販売もはじめることができました」。NTTクラリティには週1回、NTTソフトウェアには、月1回販売に行っているそうです。450個ほどのパンを持っていくのですが、11時半の販売開始前からお客様が並び、13時の終了を待たずに売り切れてしまうことがほとんど。「販売日は、朝の3時起きで、4時から作業をスタートしているんですよ」と天野さん。

訪問販売を担当しているお二人に、話を聞きました。今年の春に特別支援学校を卒業したばかりの山崎さんは「通っているうちに顔を覚えてくださる方がいて、声をかけてくださったりするんです。販売を通じてたくさんの人に、私たちのパンを知ってもらえることが嬉しいですね」と話してくれました。また、以前コンビニエンスストアで働いていたことがあるという中山さんは、「本当は人と接するのは苦手なんです。でもパンは好きでよく食べているので、味についての説明はできます。販売で、もっと自信をつけて人前でしゃべれるようになりたいですね」と話します。

NTTクラリティやNTTソフトウェアでの販売が、障がいのある人の働く機会と可能性を広げているとしたら、とても嬉しいことです。

## 武蔵野の秋の一日を満喫した「むさしのあったかまつり」



10月22日土曜日。いつもは静かな住宅街が、この日は朝から大勢の人で賑わっていました。今年（2016年）で16回目を迎える「むさしのあったかまつり」。武蔵野市内で20年以上活動続ける「社会福祉法人武蔵野」が中心となって、市内のNPOや社会福祉法人、ボランティアの学生などがそれぞれブースを出して、食品や衣料品、雑貨などを販売したり、ゲームをしたり、『障がいのある人もない人も一緒に楽しもう!』というお祭りです。会場は「武蔵野障害者総合センター」と「中央通りさくら並木公園」。

今年は、NTTクラリティも初めてブースを出店。塩山ファクトリーで作られたポストカードやボールペンなどを販売しました。塩山ファクトリーからやってきた社員も、自分たちが作った商品を直接お客様に販売するという貴重な経験をすることができました。

また、クラリティブースの向かいには、「Open the egg（オープン・ザ・エッグ）」も出店。「Open the egg」とは、武蔵野地域を中心に活動する障がい者アーティストの作品をTシャツやポストカード、トートバッグなど商品にして販売することで、障がいのある人たちの可能性を広げようというプロジェクトです。個性豊かで温かみのある商品を販売していました。

この日、訪れた人たちは、焼きそばやちらし寿司などの軽食を楽しみながら、障がいのある人が作ったお菓子や雑貨を手にとったり、公園で開催されているゲームに参加したり、ステージでのダンスやバンド演奏に盛り上がったりと、思い思いの休日を過ごしていました。

## NTTクラリティ社員が、全国アビリンピックで銅メダル!

第36回全国障害者技能競技大会（全国アビリンピック）

<http://yamagata-wazaou.jp/>



2016年10月28日から30日の3日間、第36回全国障害者技能競技大会（全国アビリンピック）が、山形県山形市と天童市で開催されました。NTTクラリティからは、武蔵野本社に勤務する豊島裕輔さんが出場し、「パソコンデータ入力」の種目で見事銅メダルを獲得しました。

「アビリンピック」とは、障がいのある人たちが日々職場などで培った技能を競う大会です。障がいのある人たちの技能向上を図るとともに、企業や一般の人たちに、障がい理解と認識を深めてもらい、雇用の促進につながることを目的として開催されています。

今回開催された山形大会では、「機械・金属系」、



「建築・工芸系」、「電子技術系」、「情報技術系」、「サービス・ファッション系」の5分野、22種目で競いました。豊島さんは「情報技術系」の中の「パソコンデータ入力」という種目に出場しました。

「パソコンデータ入力」は、アンケートや伝票などの入力作業のスピードと正確さを競う競技。正確さはもちろん、与えられた指示を正しく理解する力、体裁の整った美しい帳票が作成できるか、など、集中力と持続力が求められます。

開会式では、東京都代表として旗手を努めた豊島さん。競技当日は朝から緊張していたとのことですが、2時間半におよぶ長丁場の競技が終わるとホッとしたように「やれることはすべてやりました!」とすっきりした顔を見せてくれました。そして結果は見事「銅メダル」。本人にとっても、応援団として帯同したクラリティ社員にとっても、実り多い大会となりました。